

子育ても老後も安心の北海道を

礼文の漁師の家に生まれ小樽で保育士に

1951年、礼文島の漁師、8人兄妹の家庭に生まれ、小樽潮陵高校卒業後、兄たちの協力とアルバイトで道立保育専門学院を卒業し、小樽市の保育士になりました。



私の原点 健やかな成長願い保育士29年
「障害児にも学童保育を」の運動

保育士29年間の最後の職場は「さくら学園」でした。そこで、「障がいを持つ子の母親は働けない」というお母さんの声を取り上げ、お母さんたちと一緒に運動し、障害児学童保育を実現させました。

道民の暮らしに寄り添って 私の
住民運動と一緒にガンバル 信条です

市職労女性部長を長くつとめ、働く女性の地位向上のために運動しました。新日本婦人の会、母親連絡会の活動を通して、女性・母親の要求運動にとりくみました。

「みんなで一緒に」と、国保料引き下げの運動、市立病院の移転問題、市営プールの存続、JR在来線の存続を求める住民の会など、住民運動を進めてきました。正当な要求、あたり前の願い、だと思ったら引かないのでみんなで頑張り通してきました。

女性の切実な願い実現へ



どんな小さな声も道政に届けたいと駆けめぐってきました

道議として小樽の声を届けて 4年



子育て支援の拡大を実現

2015年4月に道議に初当選、その年の5月、知事への予算要望で、小樽協会病院の医師確保への北海道の支援を要望し、質問で、小樽市のとりくみや住民運動をとりあげ、分娩再開のために奮闘してきました。

出産できる医療機関がない自治体の妊婦さんが、他自治体の医療機関での健診・出産にかかる交通費と宿泊費への助成を求め、5割助成を実現させました。また、保育士不足の解消、保育料の軽減を求めてきました。



駅のバリアフリー化推進

JR駅舎のバリアフリー化実現のため、地域住民と署名運動にとりくみ、JR北海道に駅舎のバリアフリー化の要望を届け、道議会でも取り上げてきました。2017年にJR錢函駅にエレベーターが設置されました。また、JR南小樽駅でも、今年バリアフリー化工事が行われる予定です。

みんなが笑顔でくらせる北海道に

被災地の復興、災害につよい北海道へ

2018年9月6日、胆振東部地震では、菊地道議と日本共産党議員団は、国会議員とも協力し、被災地での要望を聞き取りし、質問でとりあげてきました。

このときの全道停電で、小樽市内の主要交差点の信号機が動かない事態を受け、菊地道議は11月の決算特別委員会で「停電対応信号機」の増設を求めました。小樽市に2基、全道で34基増設されることになりました。



胆振東部地震直後の8日、
厚真町で要望を聞く菊地道議（右から2人目）

泊原発再稼働やめ、廃炉に

ムダづかいやめて、
道民の暮らしに予算を



ムダづかいやめて、
道民の暮らしに予算を

石狩湾
新港

ダム
開発道路

新幹線
札幌延伸

北防波堤延伸・新規ふ頭整備等
で560億円

不要不急の工事増額4400億円

赤字約100億。課題山積み。
自治体負担激増、地方路線切り捨て

- 高い国保料の引き下げ。
新年度からの国保料値上げの撤回
- 子どもの医療助成拡大
- 農林漁業への支援拡大
- 函館本線の存続
- 安心して出産できる周産期医療体制